

国内外企業の進出を  
ワンストップサービスで  
支援する総合窓口

ひょうご・神戸投資サポートセンター (財団法人ひょうご産業活性化センター)  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-1 神戸商工会議所会館4階  
TEL:078-302-2071 (代) FAX:078-302-2265 hkisc@staff.hyogo-iic.ne.jp

ビジネスサポートセンター・東京  
〒105-0003 東京都港区西新橋2-3-9 宮下ビル6階 ひょうご倶楽部・東京内  
TEL:03-3500-1361 FAX:03-3500-1362 hkbcs@hyogo-kobe.jp

## 神戸発、日中の医と健康の「懸け橋」

日本と中国の高齢化社会に貢献する  
新ビジネスを起業した新華僑の挑戦

1982年に中国から国費留学生として神戸大学にやってきた青年が、20年の時を経て神戸で起業を果たした。不惑の年に大いなる決断をしたのは陳建君氏。会社名は「上海潤東バイオテックジャパン株式会社」で、日中間の医療や健康関連ビジネスをとりもつベンチャー企業だ。学識と経験に裏づけされた陳社長のユニークな発想は、いま、神戸の地で確かな追い風にのる。これからのビジネス戦略、展望においても「神戸」は重要なキーワードなのだという。



中国側で治験に協力を得ている  
南京医科大学付属病院(江蘇省  
人民医院)外来患者診察用ビル



上海潤東バイオテック  
ジャパン株式会社  
(本社)があるキメック  
センタービル



上海潤東バイオテック  
ジャパン株式会社

社長  
陳建君氏

—現在の事業内容についてご紹介ください。

大きくは3つ。まず、日本の特定保健用食品、中国の保健食品をはじめとする機能性食品の開発サポート。そして、中国における医療機器開発サポート。3つめは中国における医薬品や医療技術の開発サポート。このほか、生活習慣病のリスクや薬の効果、体内の代謝を遺伝子レベルで調べるDNAチップ事業も有望な分野として力を入れています。

すべてに共通しているのは、日本と中国、双方のメリットとリソースを結びつける役割を担うことです。例えば、新薬の開発においては治験が必要ですが、日本では規定の被験者数を集めるのが困難。しかし、中国は人口が多く被験者も多いため、中国で治験を実施し、スピーディな新薬開発を支援しようというわけです。

—そんなビジネスはどこから発想したのですか。

40歳、人生の折り返し点で自分にできることは何かを考えました。日本が発展してきた道を中国はこれから歩みますが、中国の今は日本の親世代が経験した時代、日本の今は中国の子世代が将来経験する時代。それぞれの時代を圧縮して経験していることが自分の唯一の優位性であり、それを活用することが一番だと思いました。

しかし、貿易などは私がやる必然性がない。そこで思いついたのが健康分野。日本も中国も高

齢化とともに生活習慣病が増えており、遺伝学を学び、世界最大手の食品会社に勤務した私の経験が生かれます。中国側の協力も必要になるため、南京医科大学付属病院の院長と1年半かけて話を進め、準備を進めました。

—市場としてはやはり東京。なぜ神戸を拠点にされたのですか。

私はずっと神戸に住み、自分では「神戸っ子」と思うほどなじみが深いこと。また、美しい景観と快適な環境も魅力。それに加えて、神戸市のバックアップが大きかった。目指すビジネスは機密事項が多く、信用が第一。ところが、まともな事務所を借りるにはお金がない。そんなときに神戸市から声をかけていただき、賃料補助を受けることができました。

いま、取引先の6割が東京ですが、神戸空港のおかげで不便は全くなく、1日に東京と神戸でそれぞれ2回、会議に出席することができます。賃料は東京に比べて大幅に安く、東京のお客さんを迎えるとき、神戸ならではの港町の情緒や美しい環境を楽しんでいただくというメリットもあります。

—「神戸医療産業都市構想」や「上海・長江交易促進プロジェクト」と、2つの大規模プロジェクトも大きかったのでは。

どちらも私のビジネスにマッチするプロジェクトです。「神戸医療産業都市構想」では、バイオ関連の企業が集積するということで、交流を期待しました。その中心が、進出または進出予定の医療関連企業が自主的に組織する交流会「メドコロボ神戸」。多方面にわたる積極的な交流が行なわれています。

「上海・長江交易促進プロジェクト」は、いわば

日中の歴史づくりのシンボル。こういうプロジェクトがあることで交流の機会が生まれ、神戸と中国とのつながりを強めるのだと思います。

—9月に開催される世界華商大会に何か期待するものはありますか。

この大会では、いろんな国からさまざまな事業を営む有力な華商がやってきます。彼らの影響力は絶大ですから、われわれの情報も本国内で一気に広がる可能性もあります。つまり、専門分野に限らず、世界にネットワークを広げていくという目的が生きてくるわけです。われわれバイオ関連は世界的な視点で見ないといけないので、ぜひ、交流に期待したいです。

—今後の展望についてはいかがですか。

医療や食品において、日中が国を越えて研究開発できる仕組みづくりこそ、われわれの役割だと思っています。そのために、日中経済討論会で中国と日本の薬事のトップ会談をお膳立てしたり、大手製薬会社に中国でのこれからの臨床開発データ活用方針を語ってもらうなど、政府を動かすためのアプローチを行なっています。近々日中間の臨床データ活用についてのガイドラインが出来上がると思いますが、それが実現すれば、われわれが目指す「懸け橋」はますます大きく強くなるのではないかと思います。

### 上海潤東バイオテックジャパン株式会社

所在地：神戸市中央区港島南町1-5-2

キメックセンタービル8階

設立：2003年12月

資本金：4,000万円

海外法人：潤都科羅生物科技(北京)有限公司

国内外企業の進出を  
ワンストップサービスで  
支援する総合窓口

ひょうご・神戸投資サポートセンター (財団法人ひょうご産業活性化センター)  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-1 神戸商工会議所会館4階  
TEL:078-302-2071 (代) FAX:078-302-2265 hkisc@staff.hyogo-iic.ne.jp

ビジネスサポートセンター・東京  
〒105-0003 東京都港区西新橋2-3-9 宮下ビル6階 ひょうご倶楽部・東京内  
TEL:03-3500-1361 FAX:03-3500-1362 hkbcs@hyogo-kobe.jp

## 神戸と中国140年の 絆、さらに強く、深く。

—世界華商大会開催でますます勢いづく神戸と中国の交流—

### 神戸と華僑の歩み

神戸は今年、開港140年。それは日本を代表する国際都市としての歩みであるとともに、神戸と中国との交流の歴史そのものでもあります。

1868年、神戸港が開港されると、すでに中国と交易を行っていた長崎から十数人の中国人が外国船で神戸を訪れました。職業は外国人の通訳や、貿易商人などさまざま。彼らこそが、現在1万2千人以上いるといわれる神戸華僑の先駆。その後、さらに多くの中国人が来神し、神戸の街に根ざしたコミュニティ

「南京町」を形成。居留地に住んだ欧米人とともに、神戸の住人として近代化、高度成長への道を歩んできました。

### 今年、神戸は「中華繚乱」

世界各地で経済のグローバル化が進展するなかで、華僑の高活動はさらに活発化し、華僑ネットワークはそれまでの「地縁」「血縁」から経済活動を支え合う「業縁」へと重心を移しました。それを象徴する一大イベントが、世界中から華僑経営者が集まる「世界華商大会」。1991年にシンガポールのリークワン元首相の提唱によって創設され、2



年に一度開かれています。毎回、華僑華人ゆかりの地を巡って開催されますが、今回、その栄誉を授かったのが神戸。神戸華僑華人の140年間の功績が成しえたものです。また、大会のみで終わらせることなく、交流の大きなムーブメントを作っていくこと、2007年を「中華

年」と名付け、日本全国各地および中国で多数のイベントが開催されています。

今年、神戸はまさに「中華繚乱」。「上海・長江交易促進プロジェクト」といった国家プロジェクトも進行しており、開港以来140年間培われてきた神戸と中国の絆はますます強く結ばれていきます。

### 9.14~17 神戸で開催される「第9回世界華商大会」

【趣旨】「世界華商大会」とは、世界各地で活躍する華商(中国系の企業経営者)が一堂に会して、グローバルな経済ネットワークの樹立と華僑華人経済の活性化を目指すとともに、開催国の経済発展に寄与することを目的とした会議です。

【テーマ】今回の第9回大会のテーマは「和」。華人の国や日本において大切

### 【プログラム】

実施日	開催地	内容	開催場所
9/14(金)	神戸	エクスカーション(神戸から日帰り圏内の場所への旅行)	近畿地方各都市
		ウェルカムレセプション(神戸の地元関係者による歓迎パーティー)	神戸ポートピアホテル
9/15(土)	神戸	開幕式・基調講演(第九回世界華商大会の開催を宣言)	ワールド記念ホール
		国際交流サロン・神戸(参加者の情報交換を行う場)	神戸国際展示場 2号館
		ビジネスマッチングフェア(開催地でのビジネス情報提供と交流促進、商談・プレゼンテーションなどを実施)	神戸国際展示場 2号館
9/16(日)	神戸	インベストジャパン・ビジットジャパン 共同シンポジウム	神戸国際会議場
		ビジネスマッチングフェア(開催地でのビジネス情報提供と交流促進、商談・プレゼンテーションなどを実施)	神戸国際展示場 2号館
		分科会	神戸国際会議場
9/17(月)	大阪	大阪ミニツアー(大阪近郊の様々な場所を訪れていただくプレミアムツアー)	大阪
		閉幕式(本大会の総括報告と時期開催地への引継ぎを行う)	大阪国際会議場

にされている言葉であり、中国では、内政面では「和諧発展」(調和の取れた発展)、対外的には「和平発展」(他国との平和的協調、発展)というスローガンが掲げられています。また、古くから伝わる「和為貴」(和は貴いものである)という言葉があり、経済の分野では「和生財」(和は財を生む)とも言われます。

### 脈々と、着々と進捗する「上海・長江交易促進プロジェクト」

「上海・長江交易促進プロジェクト」は、1995年に、阪神・淡路大震災復興特定事業の一つとしてスタート。神戸・阪神地域と、中国、特に上海・長江中下流域との交易・交流を深め、相互補完関係を築こうとするもので、国境を越えた広域的な地域間交流は、日中間で初めての試みとなりました。

その後、1999年に日本側推進母体として、政府各省庁の支援の下、地元

の企業や経済団体、自治体により「日中神戸・阪神-長江中下流域交流促進協議会」が発足。一方、中国側でも朱鎔基総理(当時)の指導の下、国务院(中央政府)の国家発展・改革委員会が調整役となり、江蘇省、安徽省、江西省、上海市の長江中下流域の3省1市で構成されたプロジェクトの推進組織「中日長江中下流域-阪神・神戸地区地域合作中国側委員会」が設置されました。

### 【プロジェクトの主な取り組み】

#### ●中国ビジネスサポート

中国ビジネスに関連あるいは関心のある地元企業を対象に①セミナー・講座の開催、②コンサルティングサービスの提供、③ビジネスマッチングの場の提供等を行なっています。

#### ●神戸への進出サポート

神戸市および、神戸・兵庫南京経済貿易連絡事務所、中国企業誘致顧問(神戸で活躍する中国人事業者)、HKIS、ジェトロ神戸貿易情報センターとの連携により、中国・中国系企業のニーズにあわせた「情報提供」と「個別相談対応」を行い、神戸への進出をバックアップします。

#### ●中国ビジネスを志す留学生・OB起業家支援

神戸で中国ビジネスを志す留学生・OB起業家を対象に、起業までのサポートをワンストップで提供しています。なお、ポートアイランド第2期(人工島)で起業される場合には、法人設立の登記申請と在留許可の変更申請の書類作成を神戸市が行います<審査あり>。

